

第4回 第2次清瀬市教育総合計画マスタープラン検討委員会会議録(要旨)

日 時 平成 28 年 4 月 26 日(火) 午後 3 時～4 時 45 分

場 所 生涯学習センター 講座室 1

出席者 委員 16 名(中田委員長 村田副委員長 島澤委員 佐藤委員 福島委員
齊藤(し)委員 菊地委員 矢澤委員 和田委員 林委員 広瀬委員
西澤委員 中西委員 内野委員 小苺米委員 齊藤(隆)委員)
その他7名(教育部長 教育部参事 教育総務課長 生涯学習スポーツ課長
図書館長 郷土博物館長 統括指導主事)

欠席者 1 名(市川委員)

会議次第

1 開会

2 議題

(1)施策の方向性について

3 事務連絡

4 閉会

会議(要旨)

1 開会

教育部長挨拶

教育総務課長挨拶

2 議題

(1)施策の方向性について

(教育総務課庶務係長)

資料説明

今後の予定について

フェーズ 3 の議論→作業部会まとめ(5 月 12 日まで)→中間報告(案)市長報告→パブリックコメント→修正案(7 月 12 日)→答申(8 月 29 日) 9:00

(委員長)

前回の作業の続きを行う。今回は『楽しく魅力ある学校』『家庭教育と学校』『伝え合う生涯学習』『教育と地域の交流』について。3つのグループで討議する。『家庭教育』『生涯学習』『地域』のそれぞれのキーワードに加え、『楽しく魅力ある学校』について討議する。委員それぞれの立場で意見をだす。

グループ討議

3 事務連絡

- (1) 次回会議 5月12日
- (2) 委任状の提出について

4 閉会

第2次教育総合計画マスタープラン 第4回検討会における作業結果

平成28年4月26日

検討委員の皆さんに、フェーズ2の柱立てとの案として7つ示した上で、3つ(A～C)の作業グループに分かれ、各委員が考えるそれぞれの理想の姿となるための解決策をカードに記入し、3～5つにまとめる作業を行った結果を以下にまとめました。

Aグループ（時間の都合上カテゴリーはしていない）

フェーズ2-1		カード記載事項
1		学校をきれいにする（学校・先生・親）、上級学校では何を求められているかを知る、成長段階での目標を具体化して親に知らせる、学校に居場所を作れるようにする（クラス・部活動・係活動）、自分を大切に友達も認められる子ども、プリント配布をメールで親に通知する、自分の考えを発表する練習を繰り返す（聞き方も教わる）、ラジオ体操を取り入れる（きちんと動く）、保護者に対して学校の方針を平易な言葉で説明する、各クラスに補助の先生を入れて質問しやすい環境を作る、分からなくなったところを再度復習できる制度、不登校になりそうな子への指導（声掛け）、行事で目立れる機会をつくる（個性を生かす）、分からないところを質問できる時間を作る（学校生活）
2		自分が必要と思う、各々が自信をもち相手を尊敬する、学校が好きですか？、自分の行動が楽しめる
3		学校に行きたいと思う、学ぶ意欲、色々な事に興味が持てる、様々な国・年齢の人と関わる、刺激のある授業、専門家・得意な人を中心とした授業
4		身体を動かす力、読書を好む力、創造する力、好奇心を持ち探究する力、自ら学ぶ力（向学心）、高みを目指す力（向上心）、多様な価値観を認められる力、自分の意見を言える力、他人の意見を聞ける力、考え・意見を深化させる力
5		定期的な子供が興味関心があるイベントを行う、市としての特色を学校の中に活かす地域性、地域に住む外国人にゲストティーチャーになってもらう、地域・家庭がいっしょになった運動会を行う、学校中に様々な立場の人を入れ活動してもらおう、教育機器を現状のニーズに合わせてそろえる、給食の特別メニューの日を増やす、一流に触れさせる機会をもつ、日常の学習の他に特別メニューを設定、特色ある取り組みを紹介する、他校との交流学習を行う、すべての世代で取り組めるもの（市の特色）

メンバー 佐藤委員、福島委員、和田委員、広瀬委員、内野委員

Bグループ

フェーズ2-1		カード記載事項
1		スポーツを通じた仲間作り、尊敬される先生、教員の指導体制の見直し、言葉の中で広がる仲間、行きたくなる学校、情報ネットワークの活用、自立するための計画・実践・報告のサイクルを作る、携帯でのライン・メール等のモラルを小さな時から考えさせる、楽しい学校、夏休みの使い方、時間の使い方
2		郷土の理解、正しい日本語、道徳の時間を充実させる
3		外国への興味、国際姉妹都市づくりとその交流、海外で活躍する日本人による講演会開催（清瀬市民を含む）、外国人との交流体験、海外紹介のテレビ番組、他県との交流、英語劇の奨励、英語日・時間・場所を学校内に設置、英語発表会、外国語教育の充実

メンバー 島澤委員、林委員、西澤委員、小薊米委員、齊藤委員

Cグループ

フェーズ2-1		カード記載事項
1	先生	余力のある先生、自分の能力を見出し伸ばしてくれる、先生の顔がよく見える、面白い先生、先生職が楽しい先生
2	地域	地域との交流ができていて学校、様々な交流（老人・外国人・障害者・子ども・異年齢）
3	授業	勉強が楽しい、授業力を高めている学校、勉強がわかるついていける、勉強のわからないところを個別に教えてくれる、授業が楽しい、わかる授業
4	仲間・友達	自分の居場所がある、いつでも相談できる、自由に遊べる（グラウンド）、学校、いじめがない、全学年が仲よし、友達と遊べる
5	勉強以外の楽しみ	行事に一生懸命、俳句作り、部活が盛ん、クラブ活動が楽しい、やりたい事なんでもできる時間（週に1時間）、給食がおいしい
6	学ぶ意欲・自律的な学ぶ	自分の考えをもち発表できる力の育成、生徒が先生になり授業をする（1週間全部）、学校は塾ではない（人を育てる場を子供に分からせる）、あいさつがすばらしい、発表・意思表示聞いてもらえる

メンバー 佐藤委員、福島委員、和田委員、広瀬委員、内野委員

Aグループ

フェーズ2-3		カード記載事項
1	家庭が主体となって取り組む事	三つ子の魂100迄（三才児迄の家庭教育）、朝食を食べることの大切さを親に伝える、気持ちよく挨拶をする習慣をつける、言葉の使い方をくり返し教える（死ね、うざい、消えろ他..を使わない工夫）、基本的な生活習慣の確立、先生や親、年長者への話し方、友達であっても言っていない事と悪い事を教える、互いを認めあえる関係、食育・学校における取り組みの紹介、地域の一員としての自覚を育てる家庭のあり方
2	学校から家庭への働きかけ	前向きになれる授業・環境、相談できる窓口がたくさんある・相談窓口が誰にでもわかる、相談し易い学校・家庭の悩みを見分けられる先生、親へのアプローチ、教育の方針など分かりやすい説明、保護者会などの学校行事に参加したい、低学年の親へのフォロー・クラス便り・学校生活の問題・おやつ・友人・お金、色々な事に関心を持つ、小さなボランティア活動・学校
3	家庭と学校との連携	家庭教育講演会等の取り組み（親としてのかかわり）、学校でできること家庭ですべきことの共通理解、スマホに関する知識を親にも具体的に伝える、家庭学習の考え方の共通理解、幼児教育とは？→学校教育とは？、交通ルール（登下校・自転車）、子どもの意欲を高める・メンタル面の教育、地域（仲間）と連携して人としての意識の向上を、家庭と学校との密接な連携

メンバー 佐藤委員、福島委員、和田委員、広瀬委員、内野委員

Bグループ

フェーズ2-4		カード記載事項
1	生涯を通じた学習意欲の実現	教育への貢献、新しい知識・技術の習得、生きがいづくり、シルバー世代の楽しみ、多面的な見方、市の協力的体勢と市民の力、公平感の有る町づくり、長期的な視野を持つ
2	市民・世代間の発表・学習・体験	子供達と大人達が接触する場作り、人とのつながり ふれあいを活かす、協力する力 気持ち、発表する場、子供達が一般市民の前で発表する機会作り、保有する知識・技能の活用、体験・発表の場の設定、いろいろな体験 参加型、体験学習機会をつくる、学ぶ場の提供、病院の見学（市内教育環境の活用）、大学の見学（市内教育環境の活用）、カルチャースクール、世代を越えた学習機会の設定
3	施設の活用・システム化	集まる場の充実、図書館のサロン化、図書館の積極的活用（世代交流）、博物館の積極的活用（世代交流）、伝える環境の整備、伝統の可視化（マニュアル）、まちを歩き 歴史・自然を知る

メンバー 島澤委員、林委員、西澤委員、小薊米委員、齊藤委員

Cグループ

フェーズ2-6		カード記載事項
1	保護者	保護者側の要望、どの家庭も学校に集え、様子がわかる
2	具体的な事業	市内の諸団体と教育機関の連携（町内会・商店会・商工会・青年会議所等）、職業体験（農・工・商様々な業種で）、清瀬の特色（農家・福祉）、剣道柔道連盟の協力、学区・地区ごとに大人と子どもと一緒に行事を行う。（こども会・町会等）、いろいろな活動を通じて子供⇄住民顔でつながる、赤ちゃんのカプロジェクト
3	地域の人材	地域と保護者・子供が連携して学校に参加している、ゆるやかな組織作り、地域の方々により学校を知ってくれる機会になる、協力者の確保、地域人材バンク、地域の先生、商店や企業の経営者が学校で授業を行う仕組み作り、団塊の力を活用しよう、元気なお年寄りの活用（協力）
4	学校	学校からの要望、先生方の仕事の軽減、教育力の向上、学びの循環として俳句が周りに満たされている、学校の意識、地域の力を学校へ、一教室を支援用の活動室として用意する（常に誰かいる日々の活動）、地域住民の能力を学校で生かす（利用する）
4	コーディネーター	地域の人材が学校で生かされている（専門講師として）、地域も学校も学びの場として生かされている、コーディネーターの役割・育成、人材の発掘、地域に何があるのか知っていく、地域と学校をつなぐ窓口、地域の力により良い食生活が遅れている（食育）、学校支援の先行学校を作り他の学校へアドバイスして広げる、時代の変化（今日は学校と地域の連携が重要）教育とは（勉強・遊び・道徳）

メンバー 村田委員、齊藤（し）委員、菊地委員、矢澤委員、中西委員